

## ティーチング・ポートフォリオ

史学科 高津 純也

(記入日： 2023年 9月 30日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

アジア史研究入門(1) (1年前期必修)、アジア史概説(1) (2年後期必修)、アジア史演習(1) (3年選択必修)、東アジア史 (3~4年後期選択必修) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

日本を含む上位ブロックである東アジア世界の歴史文化社会について学び、また自ら調べ自ら考えること、その結果をまとめて発表や討論に臨むことなどによって、現在および未来をよりよく生きるための教養、および社会で活躍するためのスキルを身につけることを目標とする。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

「アジア史研究入門(1)」においては、課題提出の機会において、知識を問うような課題や正解を求めるような課題ではなく、学生自身が自らの興味関心に関連する書籍を選択し、その内容を要約させるような課題を与えた。これは、歴史事項についてその知識量を競うのではなく、その意義や背景・影響まで含めて理解し、また自ら考察するという歴史学の本質に馴染み、高校の歴史の授業スタイルから思考法を転換することを促すという目的に基づく。「アジア史演習(1)」においては、漢文資料を参加者で輪読し、かつ毎回読んだ範囲内にて言及された事項について次回までにレポートさせるという授業形態の中で、講読・レポートのいずれについてもグループワークを導入し、参加者相互で協力して進展させることを促した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

「アジア史研究入門(1)」においては、受講者のほとんどが、自ら選択した書籍の内容についてその全体を要約できていることを確認できた (エビデンス 1)。

「アジア史演習(1)」においては、グループ内で協力して課題に当たることで、内容が濃く誤りの少ないレポートを作成していることを確認できた (エビデンス 2)。またそのレポートについても漢文資料読解についても、個人個人で作成するよりも完成度が高いものとなった、という感触を持っている。それはエビデ

ンスを伴うものではないが、本ゼミにおいて例年類似のカリキュラムを実施してきた経験、およびゼミ参加者の個々の実力を入学時から他の担当科目を通じて把握してきた経験に基づく。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

「アジア史演習(1)」については、毎年度後期は、自らの興味関心に応じて自由にテーマを選択してレポート発表させるという形式を取っている（上の34に記したのは前期のカリキュラム）。テーマ選択の条件は「東アジア史に関連する」という点のみで、自由度が高く、そのような状況下で自ら調べ自ら考える訓練を行うのが狙いである。しかし従前は、発表者以外の参加者が、ともすれば無関心に授業時間を過ごしてしまうケースがあった。そこで緊張感を保つため、それぞれの発表に対してランダムに2～3名を指名し、発表中で気になった点や不明だった点について質疑させるという手を取った。それは一定の効果上げたものの、やはり幾ばくかの強制を伴うことになり、まだ改善の余地があると感じた。ゼミの運営に関しては今後とも不断の改善を図ってゆきたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 「アジア史研究入門(1)」学期末レポート（講評記入後、提出者に返却）
2. 「アジア史演習(1)」各回のレポート（発表・討論ののち教員保管）

## ティーチング・ポートフォリオ

(記入日：2023年 9月 27日／史学科 辻 明日香)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎演習(1年前期必修科目、2単位)、文献講読(1)(2年前期選択必修科目、2単位)、アジア史演習(2)(3年通年選択必修科目、4単位)、史資料演習(4年通年必修科目、4単位)、アジア史研究入門(2)(1年後期必修科目、2単位)、アジア史概説(2)(2年前期必修科目、2単位)、西・南アジア史(3-4年後期選択必修科目、2単位)、歴史学(1)(共通教育科目、2単位)、観光文化(アジア)、観光歴史学、世界遺産で旅する(共通教育科目、2単位)など。

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

各学年の演習においては、学生の読解力と論理的思考のトレーニングに力を入れている。自ら問題を具体的に設定し、網羅的に資料を収集し、それを報告するというプロセスを通じて、自ら調べ学ぶという態度を身につける機会を提供する。講義においては、学生が歴史と現代世界に対する広い視野と深い洞察力を養うことを目標としている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

各学年の演習においては、学生が読む力、書く力、論理的に考える力を身につけることを目標としている。自ら問題を具体的に設定し、網羅的に資料を収集し、それを報告するというプロセスを通じて、自ら調べ学ぶという態度を身につける機会を提供する。講義においては、西アジア史の事例を通じて、学生が歴史と現代世界に対する広い視野と深い洞察力を養うことを目標とする。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

前期開講科目においては、例えばアジア史概説(2)ではリアクションペーパーの成果もあり(エビデンス1)、歴史の流れを説明する記述問題に良い解答が相次いだ。文献講読(1)では少人数で英語文献を毎週読み進めたため、各自予習が大変であったようであるが、途中から手応えを感じ、英語能力が向上してきたというコメントが授業評価アンケートにあった(エビデンス2)。基礎演習においても最終回の授業にて発言やレポート作成に対する苦手意識を克服しつつあるというコメントを複数得た。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

他の教員の授業実践の方法からも学び、学生を飽きさせないような取り組みをしたい。  
また、学生については課題を提出したというところにとどまらず、授業の予習復習や調査を自ら積極的に取り組むよう促していきたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

各授業の forms アンケート（エビデンス 1 非公開）

授業評価アンケート（エビデンス 2）

## ティーチング・ポートフォリオ

原田晶子

(記入日：2024年2月28日)

### 1. 教育の責任

西洋史研究入門（1）、西洋史概説（1）、西洋史演習（1）、史資料演習、文献購読演習、コミュニケーション能力基礎演習、基礎ゼミナール、文献講読（2）、生活文化史、外国女性史、観光文化（ヨーロッパ）、ドイツ語で読む社会と文化

### 2. 理念

史学科の西洋史担当教員として、高校までの「暗記科目」とのイメージとは異なる「歴史学」を伝えるように努めています。本学の史学科に進学する学生の多くは日本史に関心があり、西洋史への興味は必ずしも高くありません。そのため、まずは西洋史に関する基礎的な知識の習得を目指していますが、同時に、「いつ、何が起こったか」だけでなく、「なぜ、その時にその事件が起こったのか」背景について考えるよう促しています。そして学説の変化についてもできるだけ触れるようにし、今授業で伝えている内容も決して「絶対」的な教えではなく変化する可能性があるため、最終的にはく自分の頭で考えること>が重要であると伝えています。史学科で学んだ歴史の知識は、学生が卒業後の人生でほとんどの場合直接役に立つものではありませんが、史学科の4年間で「考えること」を学ぶことこそが、社会人生活や日常生活においても最も応用の利く重要なことであると考えられるからです。

### 3. 方法

講義科目では、事前に Teams に授業資料を上げ、各自の西洋史に関する知識量に応じた予習を促しています。その際、重要な部分については空欄で配信しており、授業時も集中するよう工夫しています。

また最近の学生は視覚情報に強く、具体的なイメージが湧くと理解したと考える傾向があるので、図像資料（絵画や地図、年表、家系図等）や映像資料を多用し、学生の授業理解度が深まるよう工夫しています。

さらに講義科目では、学生の理解度を確認するため、授業の最後に課題としてコメントシートの提出を求めています。Teams の Forms より提出させているため、ほとんどは各自にコメントを付けて返却していますが、重要と思う質問や複数人が疑問にもった事柄に関しては、次回の授業の冒頭で全員に対して回答するようにしています。このような方法で、講義科目であっても一方方向の授業にならないよう工夫しています。

演習科目では、最初にレジュメのひな型を示し、報告の際に問題提起－議論－結論をきちんと設定させ、論理的に思考する訓練となるよう心掛けています。

また演習科目では、全員の積極的な授業への参加を促すため、報告に対して出席者は必ず質問することを義務づけています。そして質問に対してはまず報告者に答えさせることで、報告者の入念な準備を促しました。実際、授業の回数を追うごとにリサーチの精度が上がっているとの手応えがあります。

#### 4. 成果

講義科目では、事前に授業資料の一部を配信することで予習する学生が増え、学生の授業理解の深化につながったと考えます。また、視聴覚資料を多用したことにより、学生が授業内容により具体的なイメージが持てるようになり、学生の授業内容の理解度が上昇しました。そして毎回コメントの提出を求めたことで、学生の授業に対する理解度が確認でき、次回の授業の冒頭で補足説明を行うことで、学生の理解度がより高まったとの実感があります。

演習科目では、参加者全員に発言を義務付けたことで、回を追うごとに質問が工夫され、また質問に答えるため報告者のリサーチの精度も上がっていったとの手応えがあります。

ただ、今年度は卒業論文を指導した学生数が2桁と多く、その分1年～3年生の授業では例年よりきめ細かな配慮ができなかったと反省しています。授業準備の時間配分など工夫し、今年度の経験は来年度以降に生かしていくつもりです。

#### 5. 今後の目標（これからどうするか）

少数ですが、一部、授業内容を消化しきれない学生や明らかに基礎知識が不足している学生がいたので、フォローアップする機会を設けたいと考えています。

#### 6. エビデンスとなるもの

- ・ 講義科目（「西洋史研究入門（1）」「西洋史概説（1）」「生活文化史」「外国女性史」「観光文化（ヨーロッパ）」の授業資料
- ・ 上記科目の毎回の課題（Teams から提出されたコメントシート）
- ・ 演習科目（「西洋史演習（1）」「史資料演習」「文献購読演習」「コミュニケーション能力基礎演習」「基礎ゼミナール」）で配布した史資料。
- ・ 演習科目での学生の報告レジュメと学期末レポート

# ティーチング・ポートフォリオ

史学科 堀部 猛

(記入日：2023 年 9 月 26 日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目 2023 年度前期分）

【博物館学芸員課程に関する専門教育科目】

「博物館展示論」「博物館資料論」「博物館経営論」「博物館実習」

【史学科専門教育科目】

「日本史演習（1）」「史資料演習」

【共通教育科目】

「考古学」

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

- ・「博物館学芸員課程に関する専門教育科目」については、人文系の地域博物館の多様な実践例や 2023 年 4 月施行の改正博物館法の趣旨を踏まえ、社会における博物館の役割を理解し、学芸員として必要な知識・技能を身につけることを目標としている。
- ・歴史学に関する講義科目については、歴史的事象がどのような背景のもとで、「なぜこの時起こったのか」について主体的に考えられることを目標としている。演習科目では、自ら課題を発見して資料を収集し、分析して構成する能力を身につけることを目標としている。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

「博物館学芸員課程に関する専門教育科目」「史学科専門科目」などの講義形式の科目については、事前に Teams に授業資料を配信し、予習を促している。資料画像などの視聴覚資料を増やして興味関心を高められるようにするとともに、重要な部分については空欄で配信し、学生が授業中に記入しながら集中して受講できるよう工夫している。また、学生の理解度を確認し、疑問に思ったことを質問できるようコメントシートの提出を求め、次の授業の冒頭でコメントシートの講評と質問に答え、補足説明することで双方向の授業となるよう心掛けている。

学生の報告を伴う演習科目では、最初の授業で教員が報告してレジュメのひな型を示

し、問題点の発見と分析、結論に導くよう指導した。また、報告者に対して出席者全員が予習して質問するよう促し、積極的な授業参加となるよう工夫している。

博物館実習では、講義と資料の取り扱いなどの実技を織り交ぜながら実施している。ノートを配布し、講義内容を書き込んで提出することで知識・技能の定着を図り、理解度を確認のうえコメントを付して返却している。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

講義科目については、授業冒頭で行うコメントシートの講評や質問への応答を行うことでより授業への理解が深くなっている手応えがある。概して他の学生がどのようなコメントを書いているかについての関心は高く、回を重ねるごとにコメントシートの内容が充実し、多様な質問ができるようになった。

演習科目では、興味関心に即して学生が課題論文を選んでおり、報告と質問への対応を通して、徐々に要点をおさえた論文の読み方や関連資料の収集を身につけることができるようになっている。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

講義形式では、よりテーマを明確にした授業構成となるよう工夫したい。演習形式（3年次の日本史演習）では、後期から史料を輪読する方式に移行し、卒業論文作成に必要な基礎的能力の向上に努める。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 講義科目（博物館展示論・博物館資料論・博物館経営論・日本史概説）の授業資料。
- 2 演習科目（日本史演習・史資料演習）で配布した資料。
- 3 博物館実習での配布資料（博物館見学資料を含む）
- 4 コメントシート
- 5 演習科目での学生の報告レジュメ



# ティーチング・ポートフォリオ

史学科 堀部 猛

(記入日：2024年 2月 26日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目 2023年度後期分）

### 【博物館学芸員課程に関する専門教育科目】

「博物館概論」「博物館教育論」「博物館資料保存論」「博物館実習」

### 【史学科専門教育科目】

「日本史研究入門（2）」「日本史演習（1）」「史資料演習」

### 【共通教育科目】

「考古学」

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

- ・「博物館学芸員課程に関する専門教育科目」については、人文系の地域博物館の多様な実践例を踏まえ、学芸員として必要な知識・技能を身につけることを目標としている。特に資格取得を希望する1年生が履修する「博物館概論」では、博物館法の改正内容とその背景を学ぶことを通して、これからの博物館に求められる役割を理解することを目標としている。
- ・歴史学に関する講義科目については、歴史的事象がどのような背景のもとで、「なぜこの時起こったのか」について主体的に考えられることを目標としている。演習科目では、自ら課題を発見して資料を収集し、分析して構成する能力を身につけることを目標としている。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

「博物館学芸員課程に関する専門教育科目」「史学科専門科目」などの講義形式の科目については、事前に Teams に授業資料を配信し、予習を促している。資料画像などの視聴覚資料を増やして興味関心を高められるようにするとともに、重要な部分については空欄で配信し、学生が授業中に記入しながら集中して受講できるよう工夫している。

また、学生の理解度を確認し、疑問に思ったことを質問できるようコメントシートの提出を求め、次の授業の冒頭でコメントシートの講評と質問に答え、補足説明することで双方向の授業となるよう心掛けている。

演習科目のうち「日本史演習（1）」では、後期からの史料（『令義解』）輪読にスムーズに移行できるよう、前期の最後の授業で文献や関連史料の調べ方をレクチャーし、夏季休暇の

間に報告の準備に取り組むよう促した。「史資料演習」では夏季に章立て案について指導し、課題提示から結論に至る論旨の構成力の育成に重点をおいて指導した。

博物館実習では、資料の梱包や調書の作成、展覧会の企画について、講義と実技を織り交ぜながら進めた。ノートを配布し、講義内容を書き込んで提出することで知識・技能の定着を図り、理解度を確認のうえコメントを付して返却している。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

講義科目については、授業冒頭で行うコメントシートの講評や質問への応答を行うことでより授業への理解が深くなっている手応えがある。回を重ねるごとにコメントシートの内容が充実するようになった。

演習科目（「日本史演習（1）」）では、学生の報告に対し、教員側も訓読文を毎回提示し、読解のポイントを示すことで、史料の読解力が向上していった。

「博物館実習」は、受講生各自が夏季休暇中に「館務実習」に従事し、さらに博物館見学で実際の学芸員の方に話をうかがう機会を設けたことで、学内での実習の動機づけが強化され、授業での積極性が増した。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

講義形式では、よりテーマを明確にした授業構成となるよう工夫したい。演習形式（3年次の「日本史演習」）では、4年次に取り組む卒論のテーマもおおよそ見出せるような機会の設定にも努め、卒論制作にスムーズに移れるよう工夫したい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 講義科目（博物館概論・博物館資料保存論・博物館教育論・日本史研究入門・考古学）の授業資料。
- 2 演習科目（日本史演習・史資料演習）で配布した資料。
- 3 博物館実習での配布資料と学生が提出した授業ノート
- 4 コメントシート
- 5 演習科目での学生の報告レジュメ

## ティーチング・ポートフォリオ

大西 克典

(記入日： 2024年 2月 23日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

西洋史概説(2)、文献講読演習、西洋史演習(2)、史資料演習、都市の歴史、ヨーロッパ中近世史

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

- ・西洋史に関する基礎的な知識を身に着けさせるため
- ・学生自らが情報を主体的に獲得し、歴史的な知識に裏打ちされた考察を行うことができるようにするため

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

- ・学生の理解度や知識の定着度を測るために、Forms を用いた小テストやコメントシートの記入などを行った。(西洋史概説(2)、歴史学(2)など)
- ・Teams 上に資料を上げ、講義資料をいつでも簡単に閲覧することができるようにした。(西洋史概説(2)、西洋史演習(2)など)
- ・小テストを行い、学生の理解度の確認や知識の定着を促した、(西洋史概説(2))

### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

- ・Teams 上に資料を上げることで、時間や場所の制約を受けずに、学生がデータにアクセスでき、主体的な学習を促すことにある程度つながった。
- ・しかし知識獲得に積極的な成績上位の学生は Teams による資料配布や Goodnote を用いた iPad でのノートテイクにも順応したが、成績下位の学生は iPad を用いた授業に適合できない場合もあった。成績があまり振るわない学生に学習・研究を促す必要がある。
- ・全ての資料をオンラインで配布した場合、試験の時にあらためて持込のための資料を学生が印刷する必要があり、負担となっている。試験の形態を変更するなど、修正する必要があると思われる。

5 今後の目標（これからどうするか）

- ・Teams や Forms などを用いた授業資料の配布やアンケート・課題の設定を続ける一方、それらを用いた事前・事後学習へと導く工夫を行う必要がある。
- ・特に成績の振るわない学生や明らかに基礎知識が不足している学生については、フォローアップする機会を設けたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 西洋史概説(2)講義資料
2. 都市の歴史講義資料
3. 西洋史演習(2)資料
4. ヨーロッパ中・近世史講義資料
5. リアクションペーパー及び小テスト(西洋史概説(2)、都市の歴史など)

# ティーチング・ポートフォリオ

学科：史学科 氏名：志村 瑠璃

(記入日：2024年2月21日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

### 【図書館に関する専門教育科目】

図書館概論，図書館制度・経営論，図書館情報技術論，図書館サービス概論，情報サービス論，情報サービス演習(1)，情報サービス演習(2)，図書館情報資源概論，情報資源組織論，情報資源組織演習(1)，図書館情報資源特論，図書・図書館史

### 【共通教育科目】

情報リテラシー，キャリア・プランニング III(2)，キャリア・プランニング IV(1)，キャリア・プランニング IV(2)

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

図書館について学ぶことを通して、社会における共時的・通時的な知識の循環について検討できるようになることを目指している。知識の幅広さについて知るとともに、情報の利用に関わる実際的な技術を身につけることを目標としている。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

全科目において、授業終了時には毎回リアクションペーパーとして感想や質問の提出を求め、学修内容を見直す時間を設けた。そして、次の冒頭に感想の紹介や質問への回答をおこなった。

講義科目では、学生が授業内容に注意を向け続けられるよう、穴埋め形式の配布資料を用いた。全15回の折り返し時点である第8回目頃には小テストを実施し、学生が学修内容を振り返る機会を設けた。また、「図書館情報資源概論」では、実際に大学図書館で各種資料と蔵書構成を確認する課題をおこない、講義で学んだ内容と実物を結びつける機会を設けた。

演習科目では、まずは図書館における実践を最終的な到達目標として示し、その後に段階的な課題を設定した。他にも、以前に取り組んだ課題と似た課題

を織り交ぜることで、以前の間違いを見直した成果を活かせるようにした。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

いずれの科目においても、授業評価アンケートにおける教材の利用に関する質問にて、全回答者から「効果的」あるいは「どちらかというとな効果的」との回答があった。講義科目の穴埋め形式の配布資料も、学生から一定の評価を得ていると考えられる。演習科目では、講義科目で学んだことを演習科目で応用できず、演習課題の理解に時間がかかる学生が見られる

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

演習科目の初回に講義科目の復習を扱うだけでなく、講義科目の中で演習科目との関わりに言及しておくなど、講義科目と演習科目の接続を意識した授業構成にしたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・リアクションペーパー
- ・学生から提出された演習課題等の成果物
- ・2023年度前期授業評価アンケート
- ・2023年度後期授業評価アンケート

## ティーチング・ポートフォリオ

史学科

氏名 長崎健吾

(記入日：2023年 9月 28日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

文献購読(1)(2年前期選択必修科目・2単位)、日本史概説(1)(2年前期必修科目・2単位)、日本史研究入門(1)(1年前期必修科目・2単位)、史資料演習(4年通年必修科目・4単位)、日本史演習(2)(3年通年必修科目・4単位)、コミュニケーション能力基礎演習(2年前期必修科目・2単位)、日本中世史(3～4年前期選択科目・2単位)、日本史研究入門(2)(1年後期必修科目・2単位)、日本女性史(2)(3～4年後期選択科目・2単位)、歴史学(後期共通教育科目・2単位)、文献購読(2)(2年後期選択必修科目・2単位)、文献購読演習(2年後期必修科目・2単位)、古文書学(3～4年後期選択科目・2単位) ほか

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

演習においては学術的な文献の批判的読解力、歴史学研究に必要な史料読解力、およびこれらを伸ばす過程において学生相互で議論する力の育成に力を入れている。選択科目の授業においては、過去の社会について学ぶなかで現代社会の問題の根源を洞察する力の涵養を目指している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

演習においては各学生に毎回最低1度の発言を義務付け、報告内容が不十分な場合は追加の課題を課して次回の演習冒頭で短い報告を課している。取り上げる題材(論文や史料など)の決定においてはいくつか候補を挙げつつ学生の意見を聞きながら決定し、演習が学生の興味関心に沿ったものとなるよう努めている。講義形式の授業においては各回の授業後にコメントシートを提出してもらい、寄せられた疑問や感想のうち特に重要なものを次回の授業冒頭で紹介し、発展的な解説を加えている。また、グループワークやペアワークなどアクティブラーニングの機会を適宜もうけている。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

前期の科目については、1年生向けの必修授業や3～4年生向けの選択授業のコメントシートに積極的な回答（講義内容の特定のテーマに興味をもったので自分で調べてみたいとするもの、他の授業で学んだ内容と関連付けて考察するものなど）が目に着いた。各授業で実施したグループワークについては概ね盛り上がり、好評であった。その一方、講義形式の授業についてはやや内容の詰め込み過ぎがあったと感じている。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

講義内容を精選するとともに、コメントシートや授業内での質疑など、学生との対話を通じた学習の比重を高めて行きたい。文献購読や演習において史料をあつかう際は、あらかじめ中世漢文の語法などについてももう少し簡潔かつ体系的に教える方法を考えて行きたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・講義形式の授業で毎回課しているコメントシート（非公開）
- ・授業評価アンケート